

テーマ：『 地域環境保全に着目した理科の授業の創造』

宇都宮市立 築瀬小学校

Tel. 028-633-0363

担当 安西 理子

者：



雨水タンクの設置



遊歩道作り



育てたクロメダカの放流



雑草園  
実のなる木  
花  
メダカ池  
水辺の植物  
ミニ水田  
雨水タンク  
雑草園  
遊歩道  
花  
中庭の様子

■ 実践内容：

築瀬小学校では、自然科学クラブが中心となりながら、全校児童で、水辺の自然や植物に触れることができる環境づくりに取り組んだ。まず、中庭の石拾いから始まった。河岸段丘に位置する本校は少し土を掘るだけで丸石がごろごろの状態だった。そのため、全児童・職員で何度も石拾いをした。その後、環境のための雨水利用を学習させるため、雨水を循環させるためのタンクを設置した。そして、観察できる植物の移植・栽培を開始した。クロメダカを池で飼育し、5年生が理科で観察した。4年生は理科でヒョウタンの観察、1・2年生が生活科で草花や生き物との触れ合い学習を行った。小規模の水田を作り、稲を水耕栽培し稲刈りを実施した。科学クラブでは、中庭の生き物・植物の名前を調べ、近くの田川の生き物と比較した。水生生物を採取し水質指標生物についても学習中である。今後、自然の水環境についても目を向けていきたいと考えている。こうした取り組みは、学校ホームページで紹介し、保護者に向け広報紙も発信した。10月末に、全校集会で自然科学クラブが成果を発表する予定である。

■ 実践成果：

周りに自然環境が失われつつある地区であるが、中庭の環境を整えたことで、生き物や植物と触れ合うことが増え、様々な気づきがあった。また、継続的観察も行うことができた。自分たちで土にふれ、中庭を作り上げたことにより、自然を身近に感じ大切にしようという思いを持つことができた。自然科学クラブでは、田川と中庭の池に触れることにより、活動の幅が広がり児童が生き生きと活動することができた。

■ 実践ポイント：

どの活動にも児童が主体的に関わることにより、環境について理解を深めていくようにさせたい。また、環境と人がつながっていることも理解させていくために、継続的に関わるができるようにしていく。